

カラフルワールドの実現に向け『ユニバーサル社会フォーラム』を開催

～福岡市を拠点に活動する難聴の子を持つ家族会「そらいろ」～

福岡市を拠点に活動を行う難聴の子を持つ家族会そらいろ（福岡市、会長：岩尾至和、以下「そらいろ」）は、放課後等デイサービス スケッチブックを運営する株式会社D.L.S（福岡市、代表取締役 梶本真佑）は、2019年8月4日（日）に『ユニバーサル社会フォーラム』を開催いたしました。



【本件のポイント】

両団体関係者を対象に、難聴を持つ子どもたちの未来をテーマとした「ユニバーサル社会フォーラム」を開催。各専門分野の講演者を招いた学びの場に28人が参加。

そらいろは「難聴の子どもが、社会でうまくコミュニケーションをとれるように、また、難聴の子どもがいる家族が、不安を取り除いて、安心して温かい家族関係を作れるように」を目的に掲げ、定例会を中心とした活動を展開しています。『ユニバーサル社会フォーラム』と題した第10回定例会は、カラフルワールド（多様性が混ざり合い自然に共生できている社会）実現に向けた学びの場となりました。

基調講演では、大阪府・障がい者相談支援アドバイザーの宮崎氏より共生社会実現に向けた支援ロジックに関するお話がありました。これまでのバリアフリー、ユニバーサルデザインから一歩進み、障害のある人もない人も、高齢者もそうでない人も、ともに使いやすい「共用のデザイン」（アクセシブルデザイン）という考え方が産業界で強調される中、年開催の東京オリンピック・パラリンピックが環境整備を加速させているという内容は、大変興味深いものでした。パネルディスカッションでは、宮崎氏と福岡国際医療福祉大学で言語聴覚専攻科教授を務める平島氏、福岡市立心身障がい福祉センター言語聴覚士の吉次氏にて「共生社会」「難聴児の家族の応援」「言語聴覚士を知る」「難聴児の未来像」などをテーマに多くの意見が交わされました。最後に行われた質疑応答やグループシェアでは様々な意見が出る中、参加者の理解と意識が深まっていきました。

10月には難聴理解を広げる活動の一環として、ろうの方との交流会を行うとともに、ハロウィンパーティの開催を予定しております（※）。

（※）2019年10月13日（日）の10:00～、福岡市立心身障がい福祉センター（あいあいセンター）にて実施予定。

【フォーラム概要】※第10回定例会として実施

開催日時：2019年8月4日（日）13:00～16:00

場 所：西新公民館（福岡市早良区西新2丁目10-10）

【基調講演】テーマ「幸せ感の共有 放課後等デイサービスと児童発達支援の役割」

講 演 者：宮崎 充弘氏（大阪府 障がい者相談支援アドバイザー）

【放課後等デイサービス・児童発達支援の事例紹介】放課後等デイサービス スケッチブック

【パネルディスカッション】テーマ「難聴を持つ子どもたちの未来 カラフルワールドになるために」

パネリスト：宮崎 充弘氏（大阪府 障がい者相談支援アドバイザー）

平島 ユイ子氏（福岡国際医療福祉大学 言語聴覚専攻科教授）

吉次 春香氏（福岡市立心身障がい福祉センター ありんこ園言語聴覚士）

【本件に関するお問い合わせ先】

難聴の子を持つ家族会 そらいろ <https://sorairofukuoka.jimdo.com/>

担当：岩尾（いわお） e-mail：yukikazu_iw203@blue.plala.or.jp